

新しく入園する子どもたちへ

渡辺靖子

幼稚園の新しいお友だち「こんにちは」とても嬉しそうですね。ご門から庭へ、たくさんのチューリップが、ちょうど皆さんの顔と同じようにニコニコゆれています。

大きい組の方たちが「きれいに、大きい花が咲きますように」と一生懸命植えたのです。お花の好きなお兄さん、お姉さんたち。そして「ワァキレイ」と喜んでくださった新しいお友だちとみんな一緒にできっとステキな幼稚園になりますね。

そうでした。まだお友だちがいます。皆さんより遊ぶの下手かも知れませんが、でも教えてあげたら、きつと喜んで遊んでくださる方々です。大きな手とかわいい手で仲良しの握手をしましょう。幼稚園の先生方です。どうぞよろしく。あ、まだまだ居ました。朝早くから大きな声で「ケッケッケッケ、もういいよ」とホ

ロロ鳥が鳴いています。早く新しいお友だちの顔が見たいのでしようね。小屋の中を往ったり、来たり、高い止まり木では鳩ポッポが「クックーまだ見えないよ」ですって。それからミミちゃん——そうなのさぎさんです——大きい方たちが付けた名前です。ちょっと呼んでみませんか。時々、みんなの保育室へも行きますよ。そしたらご馳走して上げますか。それとも一緒にねて鬼ごっこかしら。さっきから小屋の中で背のびしてみます。今頃は「みんなニコニコ、元気で良かったネ」と話していることでしょう。

幼稚園は大きな家ですが、ここはみんなのお家です。だから何でもできます。一人でできない時は、みんなで助けて上げましょう。小さい組の隣は、大きい組です。「できないの」と言うとお兄さん、お姉さんは直ぐ応援に来てくれます。だって大きい組になった方たちは、小さい組の時にやっぱり手伝って頂いたからな



の。「靴入れるところはね、ここ」と手をつないで教えてくださったり、砂場へ、ブランコへ。ゆうぎ室では積木のお舟、おうち、キングブロックの電車に入れてくれます。そのうちきつとヒミツも教えてくれることでしょう。かぶと虫の幼虫の居る所。でんでん虫のおうち。ミミズの居る所。たま虫のおうち。もう今までの探検でいろんな事を知っています。お庭の土管の中にも何かあるらしいの。おままごとも上手です。エプロンがけのお母さんが、ステキな色どりで木の実、草の実に花びら浮かせたスープをこぼさないでごちそうしてくれます。赤い屋根根のみんなのおうちへ「入れて！」と行きましょう。

小さい組の時は、一生懸命遊ぶことを覚えました。でも大きい組になりたいなし、と思った頃から遊ぶ物をどんどん作ります。ヒコキ、腕時計、ヘリコプター、ハンドバック、お花、しまいはとうとうお店屋さんになりました。大きい組になるとお仕事はなんでもやります。一番気に入っているのが裏の島ですが、相談しているんな物を植えました。去年はとうもろこしの種をまいたら、鳩がとんできて食、べてしまうので、みんなでかかしを作りました。こわい顔はすごいんですが、幼稚園の洋服を着て、帽子をかぶっているんです。島に実のなる頃は、小さい組もお手伝いに行きます。籠を持ってトマト、茄子、赤かぶ、ピーマン、でも何

と言っても一番楽しかったのはお芋掘りでした。さてその話をすることにししましょう。

それは、青い空に赤とんぼがたくさんとんで来る頃でした。朝から大きい組は鎌を持って島に入ります。お芋の葉っぱが一杯でどこにお芋があるか判らないので、「小さい組は待っててね」と仕事が始まりました。長い長いお芋の蔓の根元を見つけて切ります。裏門で待っている小さい組に、「引っ張っていいよ」と。そこで、ズルズル、ズルズルお庭まで長い長いお芋の蔓の汽車ポッポ、ミミちゃんが葉っぱを食べるので外に出して上げました。そのうち「こんどは島、もういいよ」と、そこでみんなで掘ったんです。土の中からデブイモ、チビイモ。たくさんとれて、汗びっしょり、でもとってもいい気持ちでした。青虫、いも虫、とかげも出て来て泥んこの手で遊びました。大きい組は砂場の一輪車でお芋運び。お庭の芝生はデブイモゴロゴロ、チビイモコロコロ、お芋の山ができました。そこでみんなで相談して、デブイモ一個はおみやげ、まだあるデブイモでふかしいも、そしてコロコロチビイモはやき芋に、と決まりました。幼稚園はまるでお芋屋さんでした。そして大きい組のお手伝いでお庭のパーティーが二つありました。これは内緒の話だけど、小さい組は二度お芋掘りをし

ました。大きい組がサッカーの試合をやった日に、畠へ行つて見たら、またお芋が出て来たの。お芋もいっぱい。泥だんごもいっぱいでした。幼稚園はこんな所です。泥んこになつても、洋服汚しても大丈夫。シャワーできれいになつて、着替えて帰ります。大きい組になると、もうあんまり汚しません、汚すと自分で洗います。げんきで仲良し、何でもできる子になりましょう。

(わかのび幼稚園)

河野ゆり子

今年もまた、新入園児を迎える頃となりました。若い先生は若い先生なりの、私は私なりの、先輩の先生はその先生なりの緊張度で、意欲を燃やす新年度の始まりです。

「どんな子どもたちに会えるかしら」「どんな一年になるかしら」と考えながら、担任が決つた新入園児の写真を見たり、名前を覚えたり、それを書いたりすることは楽しいものです。お部屋の棚を使い易いように動かしたり、室内装飾を作つたりしながら、以前受持つた子どもたちのことを思い出すものです。「あの子ども、入園の時は小さくてかわいかった」「あの子は泣いてこずつたのだな」「入園式に着ていった私の白い服が気に入って、

あれを着ていないといやだとごねた子がいたっけ」「今年は、泣く子がいるかしら」

幼稚園は、幼児が始めて両親から離れ、一人で活動する場です。また最近では、子どもを始めて幼稚園に出す母親も少なくないようです。というのは、一家族が一―三人位の子どもなので、入園児中、長男・長女・一人っ子の割合が多いのです。入園前に、子どもが他家へ遊びに行くことも少ないし、公園等で遊ぶ際も、交通事故・誘拐など不安な事件が多いので親が付いて行く。当然、子どもと親が離れるという経験は少なかつたといえるでしょう。ですから幼稚園入園ともなると、親子共々緊張してしまわれるのでしょう。親から離れたがらない子、むしろ親が子どもから離れたい場合もみかけます。遊んでいる子どもに、「じゃお母さん帰りますよ。いいわね。本当にいいのね」と何回も念を押しながら帰る方、「いやだわうちの子、あっさりしているんだもの」と、すがつてくれた方が良くいようなお母さんの気持ちなのでしよう。

幼児が泣く場合、入園式当日から泣く・しばらく日にちがたつてから泣くと二つのケースがあるようです。前の場合、お母さんから離れた経験の少ない子どもでしょう。先生がお母さん代りに